

1 等々力硬式野球場整備に関するこれまでの経過

等々力緑地については、平成20年10月に学識者やスポーツ関係者、地域の代表者等で構成する「等々力緑地再編整備検討委員会」を設置し、等々力緑地全体のあり方や施設の再編整備について検討を進め、次の計画をとりまとめた。

(1) 平成21年5月 等々力緑地再編整備基本方針（整備に向けた基本的な考え方）

整備に向けた基本的な考え方と、基本的な考え方を実現するための5つの方向性をとりまとめている。

(2) 平成22年2月 等々力緑地再編整備基本構想（公園の基本的な考え方）

公園全体としての施設機能の充実に向けた整備のあり方をとりまとめ、硬式野球場の整備については、施設の目標と整備の方向性をとりまとめている。

(3) 平成22年10月 等々力緑地再編整備基本計画（再編整備の方向性）

「基本方針」及び「基本構想」、検討委員会での検討経過を踏まえ、等々力緑地の再編整備の方向性をとりまとめ、硬式野球場など主な施設の整備の方向性についてとりまとめている。

(4) 平成23年3月 等々力緑地再編整備実施計画（以下「実施計画」という。）

「実施計画」では、緑地内の緑と水、安心・安全の場、動線の再整備、緑地へのアクセス改善など、緑地全体の再整備の方向とともに、陸上競技場や硬式野球場をはじめとした主要施設の整備の方向と配置、整備手順・スケジュールについてとりまとめている。

「実施計画」における野球場整備の方向

硬式野球場は、収容人員は現在 4,000 人で、高校硬式野球の選手層の拡大や技術の向上を目的に昭和42年に供用開始し、高校生による硬式野球の練習や大会、社会人野球の大会、首都大学リーグ、一般の方々の練習・試合などに利用されています。

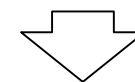
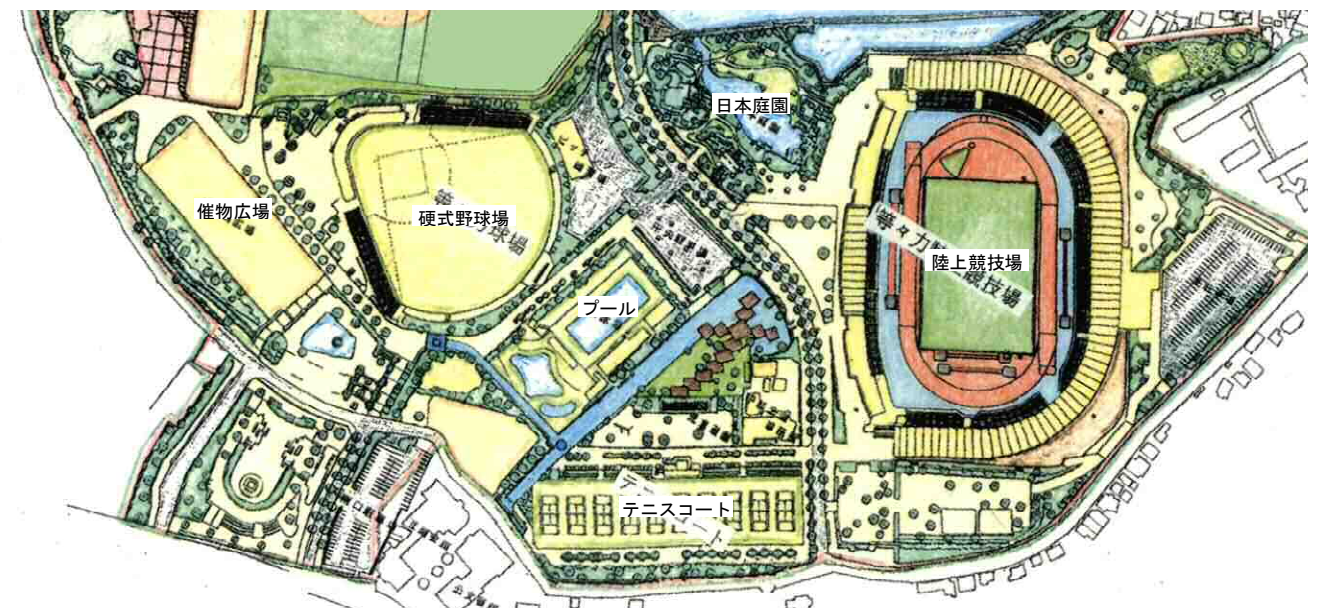
施設の老朽化、収容人員の拡大、防球対策、施設の機能向上と諸室の整備などが指摘されていますので、次の方向で整備を進めます。

- ・高校野球や社会人野球の大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上、競技者や大会関係者等の諸室の整備、防球対策等を進めます。
- ・施設規模は、高校野球や社会人野球の大会開催が可能な施設を前提とし、収容人員1万人程度とします。
- ・施設位置は、正面広場から多摩川へ続く緑の軸線を整備するため、球場周囲の歩行者の通行や待機スペース確保なども考慮しながら、南東方向へ移動します。
- ・施設は、日照による守備への影響を考慮し、本塁側を北東の向きとします。
- ・施設の多目的利用、集約化・複合化・立体化などをめざします。
- ・備蓄倉庫やヘリポートの整備など災害時の機能導入を検討します。

(5) 平成23年11月 等々力陸上競技場整備計画

陸上競技場の整備計画において、施設配置と整備イメージ、整備スケジュールについてとりまとめている。

〈現況図〉



〈施設配置イメージ図〉



2 等々力硬式野球場整備計画

これまでに策定した計画に基づき、野球場の規模や機能などについて、施設を利用する団体や関係者等と調整を図り、野球場整備へ向けた基本的な施設計画についてとりまとめた。

(1) 整備の基本方針

- ① 川崎市唯一の本格的な硬式野球場として、相応しい機能とグレードを有した施設とする。
- ② 施設位置は南東方向へ移動し、本塁側を北東の向きとする。
- ③ 「等々力緑地」の公園施設として市民に開かれた親しみやすい施設とする。
- ④ 多目的な市民利用ができる施設機能を導入する。
- ⑤ ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。
- ⑥ 災害時の救援活動、復旧活動の拠点となりうる施設とする。
- ⑦ 安定的なエネルギー環境に配慮した施設とする。
- ⑧ 民間活力の導入による施設の管理及び運営を考慮した施設とする。

(2) 施設の基本機能

<フィールド>

- ① フィールド規模は、川崎市唯一の本格的な硬式野球場として、高いレベルの競技が行えるよう両翼100m、センター122m程度とする。(県内において最大級の広さ)
- ② フィールド(内外野・ファールグラウンド)は、利用頻度やメンテナンスを考慮し、現在と同様に人工芝とする。

<内野スタンド・諸室>

- ① 観客の収容人員は1万人程度とし、内野6,000人、外野4,000人程度を収容可能とする。
- ② 快適な試合観戦ができるよう、屋根をバックネット裏観客席の一部に設置する。
- ③ 観客席は、観戦環境向上のため個席とし、一部は応援を考慮しベンチシートとする。
- ④ 大会関係諸室(本部室、役員室、記録放送室等)はバックネット裏1階部分に設置する。
- ⑤ 利用者諸室(更衣室、シャワー、トイレ等)は、大会利用を考慮し1塁側、3塁側にそれぞれ設置する。
- ⑥ 各種大会利用を考慮し、屋内ブルペン¹を1塁側、3塁側にそれぞれ設置する。
- ⑦ 現在の室内練習場の機能を確保するため、打撃練習も可能な屋内練習場を設置する。
- ⑧ 災害時における緊急物資の一時保管場所として、屋内練習場を使用可能とする。

<外野スタンド>

- ① 広く市民利用を図るため、外野スタンド部分は、芝生席とし、通常時は公園利用者が公園の一部として利用できるようにする。
- ② 野球場に隣接して設置を計画しているデッキについては、公園としての景観に配慮するため、外野スタンドと一体的に整備する。
- ③ 民間活力の導入による施設の管理及び運営を考慮し、デッキ下の一部には、インフォメーションセンターやカフェなどの設置を検討する。
- ④ 硬式野球場の前には、まとまりのある広場を整備することから、老朽化が進んだ「等々力いこいの家」について外野スタンド公園側への複合化を図る。

<設備>

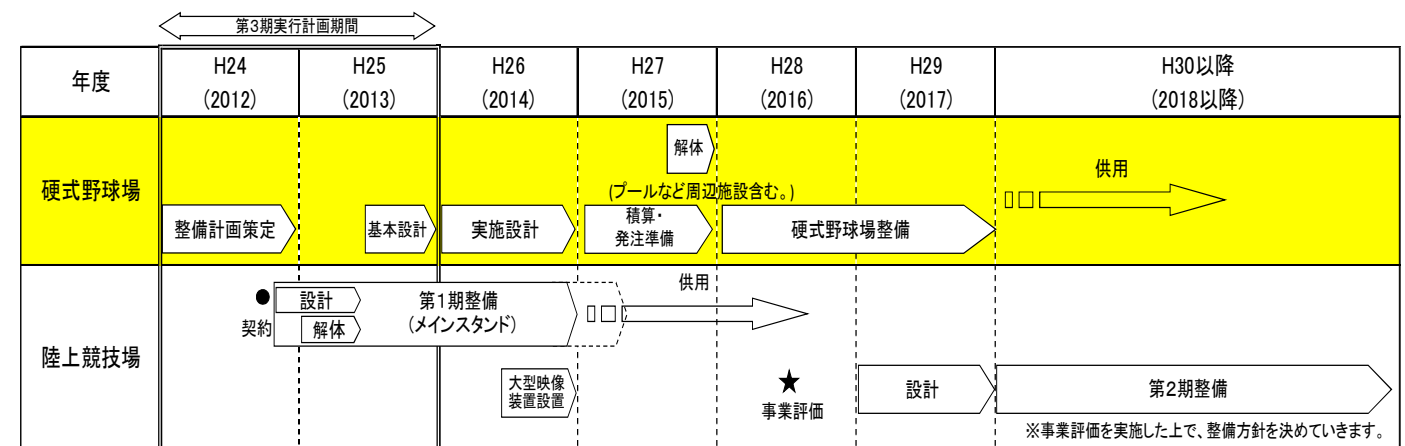
- ① ナイター照明については、硬式野球の公式競技に必要な照度を確保する。
- ② コンコースには、各種大会の開催に対応するため、売店スペースやトイレ、応援者の着替えスペースを設置する。
- ③ 防球ネットは、打球曲線を考慮して設置し、公園利用者の安全を確保する。
- ④ 安定的なエネルギー環境に配慮するため、エネルギーコスト削減に向けた設備を導入する。

<その他>

- ① 競技者の乗降や荷物の積み下ろしに配慮し、大型バスが寄り付けるロータリー等を設ける。
- ② 多目的な市民利用ができるよう、一般貸し出し用の会議室や多目的スペースを設置する。
- ③ 誰もが利用しやすい施設となるよう、多機能トイレの設置やサイン計画など、ユニバーサルデザインに配慮した施設とする。
- ④ 災害復旧活動に必要な資機材等の保管スペースとして備蓄倉庫を設置する。
- ⑤ フィールド及び諸室を、災害時の復旧活動等の活動拠点として使用可能とする。
- ⑥ 隣接する広場との一体的利用など、周辺施設と連携を図る施設等を導入する。

(3) 整備スケジュール

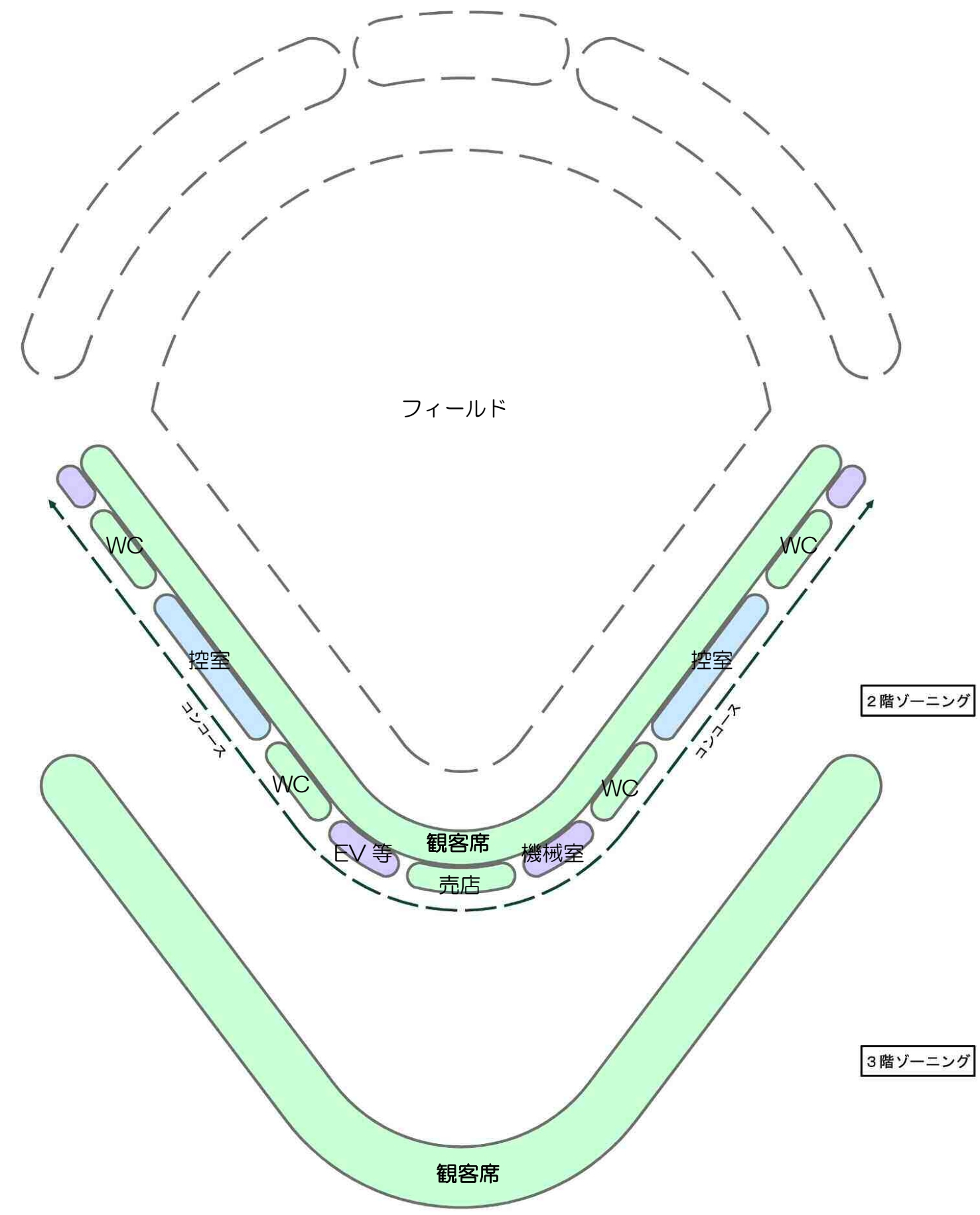
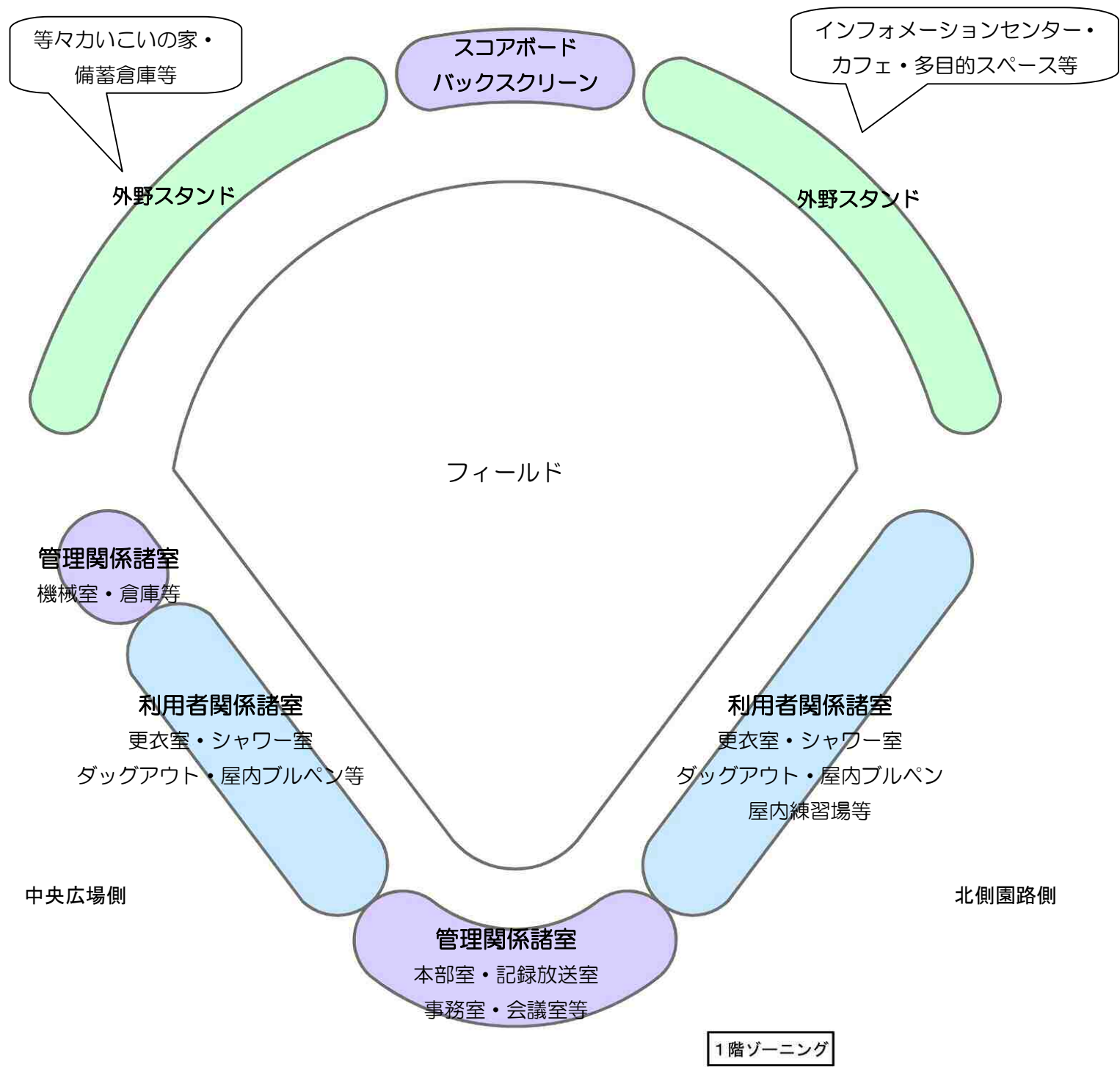
- ・既存野球場(プールなど周辺施設含む。)は、平成27年のシーズンオフより解体に着手する。
- ・改築整備は2カ年で行い、平成30年4月の供用開始をめざす。



◆スケジュールは、次期実行計画と調整を図っていきます。

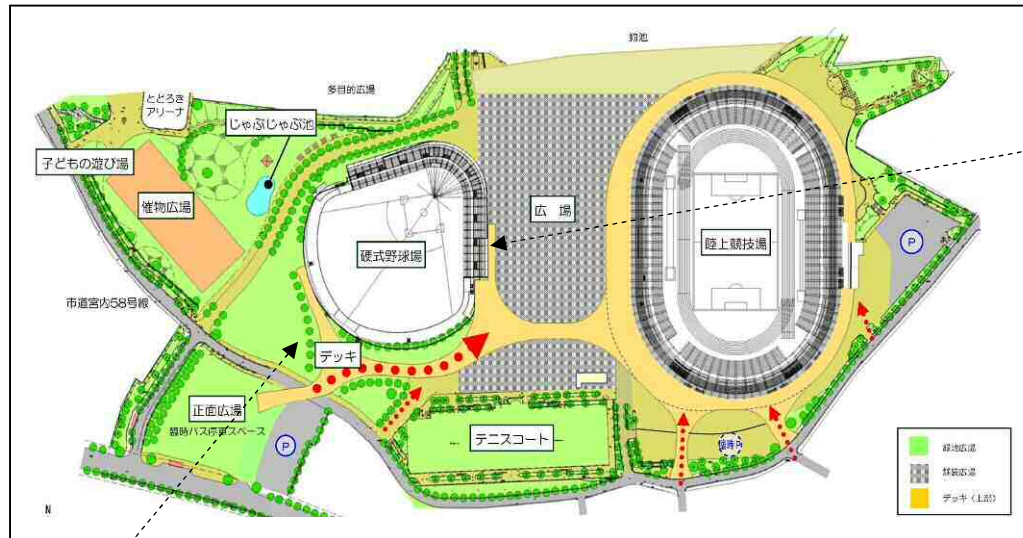
3 硬式野球場整備の平面計画イメージ

		既存施設概要		計画施設概要	
フィールド		面積：11,546㎡（人工芝） センター：120m 両翼：93m		面積：約13,500㎡（人工芝） センター：122m 両翼：100m	
スタンド	コンクリート造 スタンド	2,038㎡		約9,000㎡	
	土塁スタンド	492㎡		約2,300㎡	
観客収容 人数	内野スタンド	3,000人	4,000人	約6,000人	10,000人
	外野スタンド	1,000人		約4,000人	
夜間照明		内野：400ルツ 外野：200ルツ		内野：1,500ルツ 外野：800ルツ	
屋内練習場		球場外		スタンド内	



3階ゾーニング

4 硬式野球場整備イメージ



<中央広場側から見た整備イメージ>

※本図は、計画に基づく参考イメージです。
今後の設計において詳細な検討を進めます。



<正面広場側から見た整備イメージ>

【問い合わせ先】
川崎市建設緑政局等々力緑地再編整備室
TEL 044-200-2408
FAX 044-200-3979
E-mail 53todose@city.kawasaki.jp